

令和7年産みえの麦生産改善技術情報 第3報

赤かび病の防除時期が近づいています！適期を逃さず複数回防除を！

👉 麦類赤かび病について

- ・発生すると、粒が細くなり減収につながります。
- ・カビ毒（デオキシニバレノール：DON）が生産され、人体に悪影響をおよぼすため、食品衛生法により基準値（1.0mg/kg）を超えた麦は食用として流通することができません。
- ・開花始期から10日間程度の間が最も感染しやすく、出穂期以降の平均気温が高く（18～20℃）、湿度80%以上が3日以上あるいは降雨・低日照が続く場合に発生が多くなります。
- ・2回防除を基本とし、適期防除を徹底しましょう。



👉 感染しやすい気象条件になる恐れあり

- ・東海地方の1か月予報(4/3発表)によると、平均気温は高い確率50%、降水量は多い確率30%と、赤かび病の感染リスクが高くなる恐れがあります。

👉 防除適期

- ・**【1回目：開花始め～開花盛期】 → 【2回目：1回目防除から7～10日後】**です。

■ 予測される開花期（11/15播種）

品種	予測される開花期※1
ニシノカオリ	4/17
タマイズミR	4/28
あやひかり	4/17
さとのそら	4/18
ファイバースノウ	4/20

- ・11月中旬播種の圃場では、4月中旬から開花が始まる予想です。
- ・暖冬であった昨年と比べ生育はやや遅いため、防除適期は昨年とは異なるので注意が必要です。
- ・開花前や、開花後の経過日数が長くなってからの防除では効果が劣るため、必ず圃場で生育状況を確認し適期に防除しましょう。

※1「開花期」とは1穂につき数花開花しているものが、圃場における全穂数の40～50%に達した日。

防除適期の早限である「開花始め」は「開花期」より早い時期となる点に注意。

- ・メッシュ農業気象データを用いた生育予測システム(三重県農業研究所)による予測値。
- ・メッシュ農業気象データは、タマイズミRは伊賀市森寺、他品種は松阪市嬉野のデータを使用。
- ・4/7時点の予測値であり、今後の気象により変動する可能性があります。
- ・予測値であるため必ず圃場で生育状況を確認してください。

☞ 薬剤はローテーション散布しましょう！

- ・ 2回目以降の防除は薬剤感受性の低下を防ぐため、1回目と異なる系統（FRACコード※2）の薬剤をローテーション散布してください。

※2 FRACコード：殺菌剤の作用機構別に分類したコード

（例）1回目：トップジンMゾル（FRAC 1）
2回目：ワークアップフロアブル（FRAC 3）

FRAC コード	主要農薬名 (剤型は省略)
1	トップジンM
3	ワークアップ シルバキュア チルト
7	ミラビス

☞ 排水対策も忘れずに！

- ・ 出穂期から登熟期の湿害は、登熟不良につながります。
- ・ 令和6年産は、登熟期の多雨により湿害の発生が多く認められました。
- ・ 降雨に備え、ほ場内の明渠、排水路の連結などを徹底しましょう。



周囲溝は確実に排水溝
につなげましょう！



明渠内をチェックし、土塊等を除去しま
しょう。

特に、本作では12月以降の降雨量が極
端に少ないため、土壌が乾燥し崩れやす
くなっているため注意が必要です。

令和7年 4月 9日

三重県産麦生産改善技術対策会議